平成18年度 子どもたちの確かな学力育成のための検討委員会(第2回) 会議録

１　日　時　平成１８年8月２３日（水）　午後２時３０分～午後４時３０分

２　場　所　生駒市役所４０１・４０２会議室

３　日　程

（１）第１回委員会議録の承認について

（２）配布資料について（説明)

（３）各所掌事務の具体的な方策について

（４）その他

４　出席者

（委　員）

委員長　森井　惠治	副委員長　春見　祥司	委員　阿部　久美子
委員　田中　年男	委員　藤本　誓子	委員　西村　徹
委員　井上　宝	委員　岩田　憲一	委員　朽木　丈二
委員　辻野　トシ子	委員　岩谷　一德	

（事務局）

教育総務部長　梅本　敏弘	教育総務課長　中田　好昭
教育指導課長　西井　久之	教育総務課課長補佐　井坂　達也
教育指導課指導主事　寺田　詩子	教育総務課　楠下　崇子（書記）

議　事　等　（要　旨）

○　第１回委員会議録の承認について

会議録及びホームページの掲載内容(資料を含む)について承認を得る。

○　配布資料について（説明)

事務局から説明。委員長から、次回までに目を通してもらうように指示。

○　各所掌事務の具体的な方策について

・本日は、前回配布された資料に目を通していただいた感想や意見など、自由に述べてもらうが、できれば所掌事務を念頭に置いて話してもらいたい。

・過日、市ＰＴＡ協議会の特別委員会が開かれた際、学校、先生、勉強のすべてが楽しいと思える環境づくりをしてもらいたいという意見がでた。また、学校評価方式についてのシステムを確立できないだろうかという意見もあった。

各学校、各地域でいろいろな取り組みがあるので、子どもたちが楽しく学校生活を送れるよう、他のエリアでの情報も収集できるような校区を越えた情報交換ができればよい。

・各学校が、様々な取り組みを行いがんばっているが、生駒市では私立中学校への進学率が高いように思う。学校側としては、公立の学校に期待を持って入学した子どもたちや地域の方々の期待に応えたいし、生駒市ではこんな取り組みをしていると具体的に目に見える形でアピールできればと考えている。

学力育成の具体的な方策としては、「夏期休業中における学生ボランティアによる教科指導支援」というものを考えた。例えば、北地区なら奈良先端科学技術大学院大学に

近いという地理的な利点を生かし、夏休みに自由登校の日を設け、学生ボランティアの協力を得て生徒の苦手教科の克服等ができればいい。

・学校生活は、子どもたちが目を輝かせて登校し、いろいろなことに取り組み、明日を楽しみにしつつ帰宅するというのが理想。この委員会を通して学校生活をより楽しく、より良いものにできるヒントを得ることができればと期待している。各校園長から提出された方策はアイデアの宝庫。これらの中から何か見出せたらいい。

・少子化を迎え、保護者の子どもに対する思い入れが大きくなったこともあり、幼児教育の重要性は昔よりも向上していると思う。しかし、子どもたちを取り巻く環境が変化するとともに、保護者も孤立化し不安を感じながら子育てをしているケースがあり、各家庭で日常生活や遊びを通して学ぶことが難しくなってきているように感じる。

　遊びの中にある『学び』を大切にし、保護者と協力して学力の基礎作りと総合的な教育という幼稚園教育が担っている役割をしっかり果たしていきたい。

・具体的な方策として、生駒市として何ができるか、何をすればいいかということに絞り込んで考え、３５人学級を提案した。カリキュラム上の問題等、各学校で工夫できることは各学校で取り組めばいいこと。３５人学級が無理だとしても少人数指導の充実を期待したい。

・私も同意見。他市がまだ行っていないもので、生駒市としてできることは何かと考えて教員の加配を提案した。

　しかし、教員の加配だけで確かな学力が培えるわけではなく、教員の資質の向上、カリキュラムの問題、子育て支援等、いろいろな問題があるので、大きな視野で丁寧に考えていかねばならない。

・基礎学力について、小学校の低学年でつまずき、そのまま中学に進学したと思われる生徒や、授業に集中できない生徒がいる。また、保護者の意識や考え方も変わってきている。教員加配だけで問題が解決できるのかどうか疑問だ。

　また、地域によっていろいろな面で特色や差があるので、学校や園にとらわれず幼・小・中連携して情報交換ができるようなシステムづくり等が必要。そういう環境づくりができた上でこそ、少人数教育も生きてくると思う。

　現場では、授業やクラブ活動の他にもいろいろあり、たいへん忙しい状況だ。

・現場の教師にとっても、学校が楽しいと言ってもらえることが一番嬉しい。

　しかし、現場の忙しさはかなりのもので、子どもたちにきめ細やかに対応しようとすればなおさら時間が足りなくなる。また、現状では教員加配があっても、それによって生ずる余裕は学校によって差があり、少人数教育や更なる教員加配への期待は大きい。

・経験上、少人数の方が保育がしやすく、子どもにとっても良いと感じる。

　３歳児保育については、現状では希望者が多い場合抽選になるので、早くから集団生活に慣れさせたいという保護者の思いや子どもの気持ちを考えると、なんとかできないかと思う。

　また、預かり保育については、例えば「兄姉の参観日なので預かってほしい。」等、保護者の身近なニーズに応える形で、できることからやっていければいい。

　現場では、半日保育は水曜日のみとなったため、年中、年長の園児は園で長い時間を過ごす。職員にとっては、長時間一緒にいることによってメリットがある反面、明日の準備や教材研究等を考えると仕事の面での負担は大きくなっている。

　また、近頃は教育熱心な家庭が増え、保護者の意識も変わってきている。遊びの中にも学ぶことがあり、今の時期を大切にしてもらいたいと感じるが、保護者への啓発の必要性を感じながらも、実行は難しい。

・親としては、子どもが充実した学校生活を送れるように、どのようにバックアップをすればよいか悩むところ。市教委や各校園でいろいろな取り組みをしてもらっており、ありがたい。

個人的には、北地区では幼・小・中の連携は取れていると感じるし、近隣大学との連携事業など、子どもの視野を広げられるような取り組みがある。

しかし、最近の子どもたちには「心の豊かさ」が不足しているように思う。

塾通いやテレビ等、昔と比べると学校以外での時間の使い方が大きく変わってきているので、家庭内の生活については、各家庭で考えることが大切。そういう視点で考えると、子育て支援の重要性が感じられる。

・保護者はクラス編制をとても気にする。国や県で決められていることは仕方がないが幼・小・中それぞれの学校の現状にあわせてもう少し融通が利けばいい。市の裁量でできることがあれば、前向きに取り組んでもらいたい。

また、保護者間で世代による意識の違いを感じることがある。親の年齢に差があるということは、それぞれの家庭教育にも差が出るし、学校生活にも影響する。

預かり保育等の子育て支援も必要とは思うが、保護者同士でも「どんな形のものをどこまで望んでいるのかがわからない。」「力になりたいと思っても声をかけづらい。」という状況。

先生方の評価については、子どもと保護者の間でも、保護者間でも印象や評価が分かれる場合がある。簡単に判断せず、先生方への支援や指導にも力を入れてもらいたい。

・今後の進め方について、事務局からこの件についてもっと意見を聞きたい、考えてもらいたい等、何かあればどうぞ。

・複数の委員さんから、所掌事務のひとつである子育て支援について、家庭の教育力の

低下と親育て（親への支援）の必要性について意見がでた。

　就学前教育やそのための支援ということで、「預かり保育」と、市長の意向もあり「３歳児の待機児童の解消」について、検討を始めていただきたい。

・この委員会は、「確かな学力の育成」を目指して設置されたものなので、環境整備を行うということではなく、確かな学力の育成のためにも就学前教育から検討を始め、家庭教育や親への支援を行ってはどうかという考え方で取り組みたいと思う。

　また、少人数教育についてもこの委員会の所掌事務の一つなので、できるだけ並行して進めていきたい。

基礎があってこそ確かな学力が育成されるので、就学前教育の支援と少人数教育はどこかでつながっていくと思う。

・それでは、次回から具体的に検討を進めることとし、次は主に子育て支援について意見をいただきたいので、事務局にはその件について、先進地事例等の資料を準備してもらいたい。

○　その他

・他に何かありませんか。

・次回の会議を、１０月末にお願いしたい。

・それでは、次回は１０月３１日開催とし、本日はこれにて閉会します。

以上